

■ .NET 10 (VS 2026) に対応した SL-GMS .NX/Developer と .NX/Custom Editor の新バージョン 3.0a をリリース

制御室から Web による遠隔監視、クラウド運用ダッシュボードまでの
SL-GMS フルラインアップにおける「新世代監視制御システム (DCS/SCADA)」の開発

2026年6月25日 ニュースリリースより

SL ジャパンは、監視制御システム(DCS/SCADA)のダイナミック GUIと固有のカスタムエディタを開発するための専用ツールとして長年の実績を誇る SL-GMS ラインアップ(C++, Java, .NET Framework, HTML5, .NET)における .NX/Developer と .NX/Custom Editor の新しいバージョン 3.0a で .NET 10 (Visual Studio 2026) に対応しました。

UNIX から Linux, Windows へ、32bit から 64bit ネイティブ化、C/C++ から ActiveX, Java, .NET Framework, HTML5, .NET 6/8 へ展開してきた SL-GMS では、1983 年以來 40 年以上にわたり、共通の SL-GMSDraw エディタで対話的に開発した動的グラフィックモデルは OS バージョンで上位互換性を保持し、さらに異なる OS プラットフォームやフレームワーク間で移植性を提供し、ライフサイクルが10年前後におよぶ高度な制御システムの最も容易な移行を強力に支援してきました。そして、中央制御室から Web による遠隔監視、クラウド運用の監視ダッシュボードまで、統一されたフルラインアップのグラフィックソリューションを提供しています。

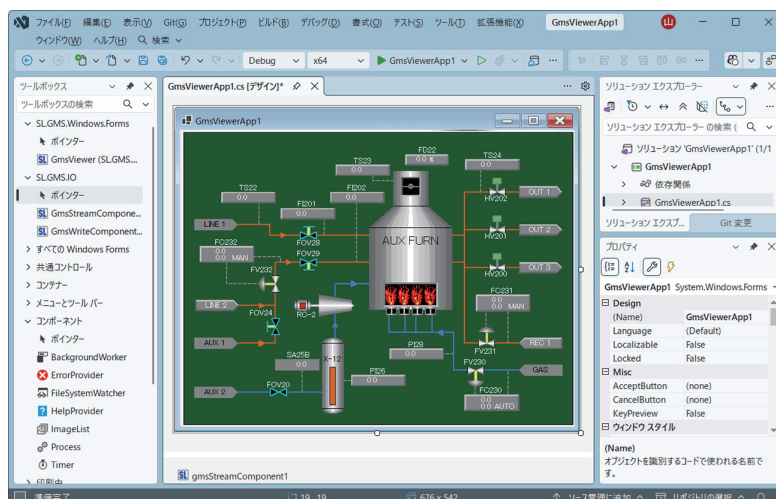
SL-GMS .NX/Developer と .NX/Custom Editor V1.0a は、他 SL-GMS 製品と同様に、SL-GMS のモデルと API の互換性を維持した上で、マイクロソフト社が最初の長期サポート (LTS) バージョンとしてリリースした .NET 6 プラットフォームにいち早く対応し、その後 V2.0a で .NET 8 に対応した、新世代監視制御システムのグラフィック操作画面 (GUI/HMI) を開発するためのツールです。そして、そのオプション製品である .NX/Custom Editor は、案件ごとの画面開発ならびに更新、フィールドメンテナンス、エンドユーザー顧客向けに、システム固有のカスタムエディタを構築するためのツールです。

他 SL-GMS 製品と同じ SL-GMSDraw エディタを使い、しきい値で警報色が変わる、バルブの開閉、機器の入/切など、さまざまな動的属性を持ったグラフィックモデルをアプリケーションから独立して対話的に作成し、すぐにその動的振舞いをエディタ内で確認できます。さらに、コンテンツリッチで高対話性ながらもコンパクトで高速な SL-GMS では、制御室と同じグラフィック監視画面をリモートデスクトップ運用または SL-GMS Web/Developer 別製品で HTML5 に変換して Web 運用でき、ローカル運用と同等の高い性能と対話性で、異種 OS パソコンの他、スマートフォンやタブレットなど幅広い端末からアクセスして操作できます。

今回の SL-GMS .NX 新 V3.0a は、マイクロソフト社が3度目の長期サポート (LTS) バージョンとして昨年末にリリースした新しい .NET 10 (Visual Studio 2026) に対応したものです。また、新 V3.0a は 2038 年問題対応版となっています。

SL-GMS は国内においても、電力・エネルギー監視、空港・鉄道・道路などの設備監視、ビル管理 (BA)、セキュリティ監視、水処理、製造ライン監視などのさまざまな制御システム (DCS/SCADA) に組み込まれて再販されており、日本の社会インフラを支えるシステム構築の一端を担ってきました。

☆ニュースリリースはこちら: https://www.sl-j.co.jp/newsevents/newsrelease/2026/sl_j_news_260625.shtml



.NET 10 の Visual Studio 2026 を使って、SL-GMSDraw で作成したグラフィック画面のアプリケーションを開発する、SL-GMS .NX/Developer 新バージョン 3.0a

64bit RHEL版 SL-GMS C++/Developer カレントバージョン 7.2a で 2038年問題対応「準拠」を表明

制御システム (DCS/SCADA) のダイナミック GUI と固有のカスタムエディタの開発で、 1980年代より進化し続けてきたロングセラー

2026年8月20日 ニュースリリースより

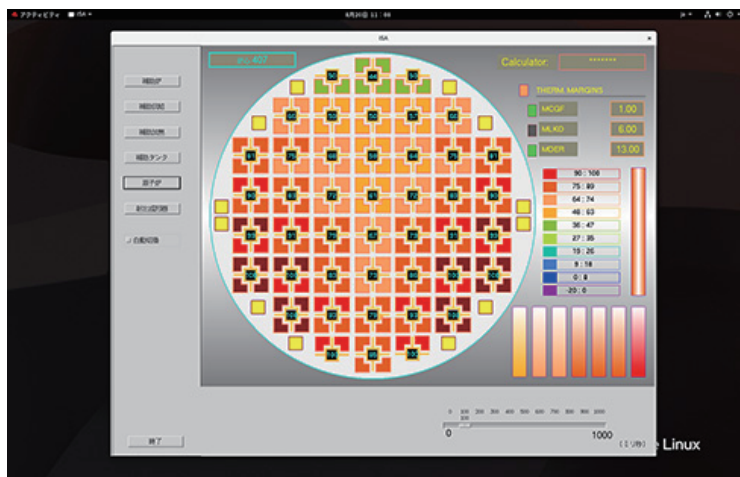
SL ジャパンは、64bit Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 9
ならびに8版の SL-GMS C++/Developer のカレントバージョン
7.2aを、米国 SL によるテスト検証の結果、2038年問題に対応
した「準拠」製品として表明しました。64bit/32bit Windows 版
SL-GMS C++/Developer では、先の2026年4月に新バージョン
7.2bで2038年問題対応版をリリースしています。

監視制御システム (DCS/SCADA) を専門とするダイナミック
GUI/HMI と固有のカスタムエディタ開発ツールである SL-GMS
C++/Developer は、UNIX 全盛期を迎えようとしていた1980年
代来のロングセラー製品です。

その後 SL-GMS C++/Developer 技術をコアに、UNIX から
Linux, Windowsへ、C++からActiveX, Java, .NET Framework,
HTML5, .NET 10それぞれのフレームワークに展開し、ライフ
サイクルが10年前後におよぶ監視制御システムの更改を長年にわたって支援してきました。

さらに、SL-GMS C++/Developer で開発されたグラフィック操作画面は、2020年9月にリリースされた SL-GMS Web/Developer (HTML5)
によって、比類なくコンパクトで高速な HTML5 コードに変換でき、Web ブラウザで運用できるようになりました。

☆ニュース全文はこちら: https://www.sl-j.co.jp/newsevents/newsrelease/2026/sl_j_news_260820.shtml



RHEL9 で稼働する補助炉制御デモの例

HTML5版の SL-GMS Web/Developer 新バージョン 4.3b で、2038年問題に対応

制御室と同じ高対話性のグラフィック画面を従来バージョンで変換した「HTML5 コード」と、 その高い性能で「ブラウザ運用」には、2038年問題の影響なし

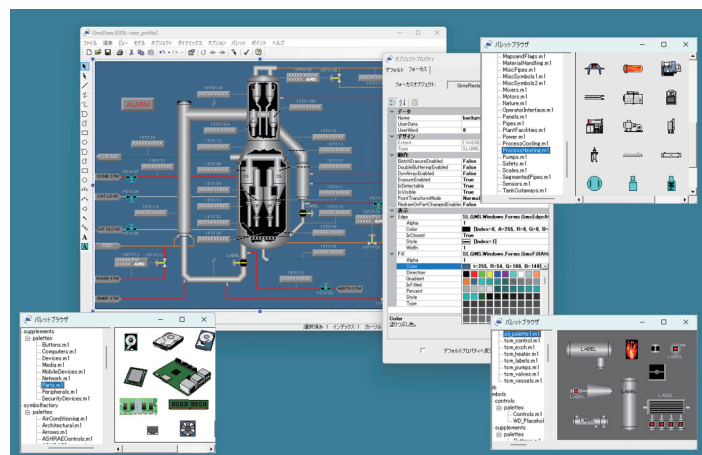
2026年9月24日 ニュースリリースより

制御室と同じ高対話性のグラフィック系統図画面などを比類なく
コンパクトで高速な HTML5 コードに変換してブラウザ運用できる、
SL-GMS Web/Developer の新バージョン 4.3b をリリースしました。
この新バージョン 4.3b は、昨年11月末にリリースしたバージョン 4.3a
の2038年問題「対応版」としてリリースしたものです。

HTML5 版の SL-GMS Web/Developer は、他 SL-GMS 製品
(C++, Java, .NET 版) と共通の SL-GMSDraw エディタで作成した
監視制御システムのグラフィック操作画面を、コードジェネレータを
使って比類なくコンパクトで高速な HTML5 に変換し、Web 運用
することを可能にします。これにより、グラフィック系統図をはじめと
する制御室と同じコンテンツリッチで高対話性の操作画面を Web
ブラウザでクラウド運用でき、ローカル運用と同等の高い性能で、
異種 OS パソコンの他、スマートフォンやタブレットなど幅広い端末
からアクセスして操作できます。

SL-GMS Web/Developer で変換 (生成) した HTML5 コードならびにその「実行版」は、従来より2038年問題の影響を受けません。
「開発版」で提供していた SL-GMSDraw エディタが2038年問題の影響を受けるため、対応した SL-GMSDraw エディタと差し換えて、
新バージョン 4.3b としてリリースしています。

☆ニュース全文はこちら: https://www.sl-j.co.jp/newsevents/newsrelease/2026/sl_j_news_260924.shtml



2038年問題対応版の SL-GMSDraw エディタに差し換えた
SL-GMS Web/Developer 新バージョン 4.3b



株式会社 SL ジャパン

〒107-0061 東京都港区北青山2-12-8 BIZ SMART 青山
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

Real-Time Visibility

年3回発行 2026年9月28日発行 通巻85号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。